

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市精神保健福祉審議会		
事務局 (担当課)		精神保健福祉課 電話042-769-9813 (直通)		
開催日時		令和4年3月3日(木)～3月14日(月)		
開催場所		書面開催		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	その他	2人(精神保健福祉センター所長 他1人)		
	事務局	5人(精神保健福祉課長 他4人)		
公開の可否		<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため		
議 題		(1) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進に係る取組について		

## 議 事 の 要 旨

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により審議会委員からの意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

### 1 議題

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進に係る取組について事務局より説明資料の送付を行い、書面により審議を行った。

(片岡委員) グループホームの伸びが著しいとあるが、利用者数も同様なのか。入居の条件が厳しく、また入居しても精神障害の特性について職員の理解が不十分との声も聞く。

(事務局) 障害福祉サービス全体の課題として庁内関係課で共有し、支援関係者と意見交換しながら、効果的な研修や事例検討等の機会を検討していく。

(片岡委員) 協議の場では専門職のみならず、当事者・家族会などもまき込んでいけると良い。また、長期入院患者が地域移行を心から望んでいるのか、本音を聞いてほしい。人それぞれの事情をふまえてかかわってほしい。

(事務局) 今年度から構築推進連絡会議（協議の場）の構成員に精神障害者の家族を加えている。現在、ピアサポーターが当事者として協議の場に参加している。

今後、地域移行支援ピアサポーターを活用し、長期入院者の思いを聴けるような場の開催を検討していきたい。

(齋藤委員) 市内在住の精神障害者のうち、知的障害が併存する方々については通所サービス事業所の数や定員は概ね充足していると思われるが、入所サービスを提供する事業所数や定員数は不足している。重い障害のためにグループホームを利用できない方々の受け皿を、更に整備・拡充できると良い。

(事務局) 全市的な課題と認識しつつも、関係部署が一体となった対応が必要と考えている。

(羽田委員) 令和4年度に向けての取組に「アウトリーチに関する研修会」を掲げているが、「アウトリーチ（訪問支援）」が精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築にどのように重要なのか。

(事務局) アウトリーチは、必要な支援が届いていない方や重度の精神障害者の方が地域で安心して暮らすために必要なアプローチであり、昨年度のにも包括アンケート調査においても関心の高さが伺えたことから研修会を企画した。

(羽田委員) 「今後の課題と方向性」の課題1の項で「自立支援協議会等との連動」

とあるが、具体的にはどのようなことを考えているか。

(事務局) 自立支援協議会において取組報告等を実施してきた。今後は人材育成やピアサポーターの活用等、連携可能な接点を検討する。

(増田委員) 市内にグループホームが増加している状況は望ましいが、臨床の現場でお聞きする話の中には、生活面での過剰な介入や強制ともとられかねない事例も散見される。利用者とホーム関係者の間に無言の力関係が生じていないかが心配である。利用者の相談をホームの担当者が担っている現状には疑問がある。

(事務局) 人権意識や人権感覚を意識した職員研修、人材育成とともに、計画相談等の安心して相談できる窓口を活用できるよう、体制の構築に取り組んでいく。

(鈴木委員) 精神障害の有る方々の職場での困難さ(体調の急変、気分の変化しやすさ等)を職場の方々に理解していただくための啓発活動を推進していただきたい。

(事務局) 職場における障害理解の促進については、雇用関係機関の動きを踏まえ、広く普及啓発活動を進めていく。

(鈴木委員) 長期入院患者の資料があるが、今後の退院、地域移行の計画(〇〇年までに長期入院者を〇名減らす等)を策定し、実施して欲しい。

(事務局) 今後の計画については、プロセスと成果、双方の視点から評価できるようにしていきたい。

(中谷委員) 今後の課題として挙げられていた、協議の場(仕組みとメンバー)については、連動して考え取り組んでいく事が、本当に必要だと感じている。

安心して地域で暮らすための支援として、特に一人暮らしの人にとって、訪問看護は心強い支援だと思う。相談支援事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所等が一堂に会し、役割分担の確認や、それぞれが抱えている課題等を共有し、より良い支援や連携ができる機会があると良い。

地域普及啓発活動は色々な場所・方法で行われているが、当事者からのメッセージ等身近な顔の見える所での活動も市民にとっては参加しやすいのではないかと(地域包括単位)。地区社協・地域包括・相談支援事業所・サービス事業所等も含め、その地域特性に応じた普及啓発の事業を行ってみることで、その地域の課題も見えてくるのではないかとと思う。また、地域単位での活動をすることで、地域での連携が活発化していくと思う。

(事務局) 関係機関の機能を理解することや課題を共有することは重要であると考えている。地域特性に応じたネットワーク構築の一つとして、事例検討会や研修会の開催を考えている。

以上

## 相模原市精神保健福祉審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	齋藤 正範	北里大学医学部		出席
2	堀越 由紀子	東海大学健康学部		欠席
3	藤田 寛之	神奈川県弁護士会	会長	出席
4	住吉 秋次	相模原市医師会		出席
5	増田 直樹	神奈川県精神科病院協会		出席
6	鈴木 秀美	相模原市社会福祉協議会		出席
7	羽田 彌	相模原ボランティア協会		出席
8	堀越 恵美子	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会		欠席
9	中谷 正代	相模原市障害者地域作業所等連絡協議会		出席
10	池田 陽子	神奈川県精神保健福祉士協会	副会長	出席
11	三好 一郎	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
12	片岡 加代子	相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
13	田中 秀泰	相模原ダルク		出席